

よわい者同志のこぜりあい

〈若人の精神文化の開拓〉

コンセプト

最近の新聞の記事で『いじめ』について取り上げられていてその大まかな内容は、自分の息子は学校側の『いじめ』が問題で自殺に追い合った母親が言っていました。だが、学校側は「本校には『いじめ』などない」と全面的に否定していたがその後も『いじめ』はありました。そのことに母親は学校側に責任があると言いました。この記事は私は読んで『いじめ』以外に何かあるのだろうかという疑問に思いました。やはり自分の学校で『いじめ』などというものは恐ろしいものだと思っていたのでしょうか？ そのことを恐ろしいものにしないためにも私達そして皆が理解し合わなければ始まらないと思った。つまり、痛みはいじめられた本人でしか分からないと思いました。そのことを少しでも多くの人々に理解してもらうためにこのテーマにしました。



説明: いじめられている人は、なぜいじめられているのか
 またいじめられている人もなぜいじめられているのかをお互いきついで
 ほしいという願いをもち、二つおじをまつている人を見ている天使がうの
 いじめに気づき、皆で助けようとそこに向かいお互い自分が何をされてい
 たのが、していたのかに気づくことができ、もうこのよなことが
 起きないように気を付けてほしいというお願いである。



説明： 絵の具は いじめられて いる人で、チューブから 絵の具が 出きて、
 爆発 している 様子。この 意味として チューブから 絵の具が 出て 「いじめ」の
 問題が 簡単に 変わって いくのを 花で 表現し 全部、絵の具を 出さ せる ことが
 できた ら 君は もう いじめられる ことは ないよ という 意味で 書いた。絵の具に
 ついて いる 羽は いじめの 問題が 全部で たら 4の 地点から 飛び 立つ ことが
 できる、という 意味で 書きました。

No. 4

よわい者同志のこせりあい

〈若人の精神文化の開拓〉

結論

いじめている人は、いじめられている人のことを考え、自分が何をしなくてはいいかということに気づくことが大切である。そして、いじめられている人は、勇気を持たないかぎり何も生きていくことはできない。一人で立ち上がることはとても大変なことだ。それを、私達が支えてあげなければならぬ。人々はただいじめられているのを傍観しているのではなく、仲間の中に入れるよう説得したり、話し合いをしなければならぬ。いじめられている人にとってそういう人々の支えが勇気の源になるのだ。先生が見守っておられても先生の存在されない所で幾つものいじめがあるのが現情である。気づいている生徒が動かなければいけない。クラス全体の問題であり、学校の教育の仕方にも問題があるといえる。いじめている人もいじめられている人も同じ人間である。いじめという問題は相互理解を深める

文対話や行動、遊び、学習などを通して理解を深める努力がない限り消ないし、もっと悪くなってしまう。最後には金を一人一人持ち歩く時代になってしまうかもしれない。